

R5年度 美術館評価調書

A 優れた作品の収集と適切な保管

旭川 美術館

【基本的運営方針】

旭川を中心とした道北地域にゆかりのあるすぐれた作品及び木を素材とした造形作品を系統的に収集、保存する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
優れたコレクションの形成	○第4期北海道立美術館等作品収蔵計画に基づき収集に取り組むものとし、作家や所蔵家と積極的に交流し、作品収集の機会を増やす。	○第4期北海道立美術館等作品収蔵計画に基づき計画的に作品収集を進めるため、木工作家の丹野則雄氏など地域の作家と交流し、情報収集に努めた。 ○木の造形作品1点及び道北の美術作品1点を受贈した。
所蔵作品の適切な保管	○日常的に作品の状態を把握し、作品の保存状況に合わせた適切な温度や湿度管理、虫害予防対策など収蔵庫の環境整備を行う。 ○修復候補作品一覧を完成させるとともに、長期的な修復計画の作成を検討する。	○作品の保存状態を常に把握するとともに、IPMIに関する専門研修に参加しより一層見識を深めるなど、積極的に展示室や収蔵庫の適切な環境整備を行った。 ○修復候補作品の洗い出しを実施した。
コレクションの効果的な活用	○所蔵品展において創意工夫を凝らした展示をするなど、所蔵品を効果的に活用する。 ○当館のみならず、他の美術館等でも効果的に展示活用してもらえよう連携強化を図る。	○アートギャラリー北海道関連事業として開催した展覧会に併せて、剣ぶち町絵本の館と連動企画を実施し、当館の所蔵品を同館に展示した。 ○旭川市内イベント「吉田幸男展」に木の造形作品を貸し出した。 ○新たに旭川市立図書館との連携事業を実施し、図書館での資料展示を行った。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
			設定の考え方								成果・課題
優れたコレクションの形成	収集方針に基づく収集活動 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	・木を素材とする造形作品を収集するなど、方針に沿った収集を行うことができた。 ・今後も計画的に優れたコレクションを形成できるような情報の収集が必要。	B	○第4期北海道立美術館等作品収蔵計画に基づき収集に取り組むものとし、作家や所蔵家と積極的に交流し、作品収集の機会を増やす。 ○文献調査や地域での情報収集に努め、作品収集計画の充実を図る。 ○日常的に作品の状態を把握し、作品の保存状況に合わせた適切な温度や湿度管理、虫害予防対策など収蔵庫の環境整備を行う。 ○修復候補作品一覧を完成させるとともに、長期的な修復計画の作成を検討する。 ○美術館のほか様々な分野の施設との連携により、所蔵作品の活用機会を増やすとともに変化に富んだ展示等の企画を検討する。
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100%	100.0%	全所蔵作品	100.0%	100.0%	①	b	・常に収蔵庫や展示室の温湿度を把握するなど、適切に保管した。 ・老朽化による設備等の故障が頻発しており収蔵品の適切な保管のため、施設・設備の日常の管理が必要である。 ・収蔵品の適切な保管に向けて早期の修復候補一覧の完成が必要。		
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復 [定性]	—	—	—	—	—	②	b			
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	・新たな連携先を開拓するなど積極的に所蔵品を活用することができた。さらに連携を強化し、所蔵作品のより効果的な活用を検討することが必要。		

R5年度 美術館評価調書

旭川 美術館

B 多彩で特色ある展示活動の充実

【基本的運営方針】

当館の所蔵品及び国内外のすぐれた作品をさまざまな角度から紹介する展示会を企画・実施する。また、他の道立美術館との連携のもとにその所蔵品を紹介する。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様なニーズに応える展示会の開催	○木の造形作品及び道北地方や北海道にゆかりのある作家・作品について調査研究しその研究結果に基づいた企画展を開催するとともに、所蔵する木彫作品を紹介するなど、その魅力の普及に取り組む。 ○多様なニーズに対応するため、国内外の優れた作品を時代、地域、分野など様々な角度から紹介する展示会を開催する。	○「蔵出し！木彫の味わい」展など、主に所蔵品展において、日頃の研究結果に基づいた展示を行い、その魅力の普及に取り組んだ。 ○「魅惑の西洋近代絵画」展などにおいて、国内外の優れた作品を展示、紹介する展示会を開催した。
観覧者拡充のための工夫	○展示会の展示内容の充実はもとより、展示会の魅力を発信する関連事業の充実を図る。 ○ポスターやチラシの他、ホームページやSNS等を効果的に活用することとし新規にInstagramのアカウントを開設するなど、幅広い年齢層への情報発信を積極的に行う。	○展示会の関連事業として、講演会やギャラリートークなど、展示会の魅力を発信する様々な事業を実施した。 ○SNSの効果的な活用として、X（旧ツイッター）に加えて、新たにInstagramのアカウントを開設し、展示会の内容を伝える記事を掲載するなど、幅広い年齢層への広告活動に力を入れた。
館外における鑑賞機会の提供	○幅広い地域における当館所蔵品の鑑賞機会を増やすため、積極的に他美術館への所蔵品の貸出を行ったり、オンラインアート教室の内容充実に取り組む。	○連携企画により剣淵町絵本の館に所蔵品の貸出を積極的に行ったり、オンラインアート教室では、子どもたちにより一層美術に関心を持ってもらえるよう内容の充実に取り組んだ。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]				評価 [CHECK]					今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価	総合評価		
			設定の考え方							成果・課題	
多様なニーズに応える展示会の開催	展示会の観覧者数（※展示会毎の内訳は下表のとおり）	57,718	50,464	年間計画による	47,343	93.8%	②	b	・観覧者数は目標値をやや下回っており、木の造形作品や道北地方の作家・作品をはじめ、様々な美術作品のさらなる魅力の発信及び幅広い世代に情報を届ける方策の検討が必要。 ・満足度は目標値を下回っており、ニーズの把握が必要。	C	○木の造形作品及び道北地方や北海道にゆかりのある作家・作品について調査研究し、その研究結果に基づいた企画展を開催するとともに、所蔵する木彫作品を紹介するなど、その魅力の普及に取り組む。 ○多様なニーズに対応するため、様々な時代や地域の優れた作品を対象とした展示会を開催する。 ○当館に愛着を持っていただくよう道民参画型の展示活動を行う。 ○若年層が美術館に興味を持つよう展示会に関連した子ども向けワークショップを実施する。 ○SNSを活用し、幅広い世代への広報活動に努める。 ○幅広い地域における当館所蔵品の鑑賞機会を増やすため、積極的に他美術館への所蔵品の貸出を行う。 ○オンラインアート教室のさらなる魅力化をはじめ、多くの学校が参加できる工夫を検討する。
	観覧者の満足度	94.8%	98.4%	過去5年間の最高値	88.9%	90.3%	②				
観覧者拡充のための工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	61.2%	68.7%	過去5年間の平均値	61.3%	89.2%	③	d	・より多くの方が繰り返し観覧したいと思われるよう展示内容の充実を図ることが必要。 ・若年層に向けて、SNSを効果的に活用する方策の検討が必要。 ・魅力ある関連事業を実施することで展示会により興味を持ってもらうことが必要。		
	観覧者に占める児童生徒の割合	12.8%	11.3%	年間計画による	5.1%	45.1%	④				
	展示の企画構成やPR等の工夫 [定性]	—	—	—	—	—	②				
館外における鑑賞機会の提供	館外における展示活動の状況 [定性]	—	—	—	—	—	②	d	・新たな連携先を開拓し、館外での鑑賞機会を提供できた。 ・オンラインアート教室への参加は2校のみであったことから、希望校、参加校数増に向けた取組が必要。		

【展示会開催状況】

区分	展示会名	計 画				実 績				特記事項
		会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	
常設展	バリへ渡った画家たち	R5.4.15~6.25	62	3,127 (754)	50	R5.4.15~6.25	62	7,666 (720)	124	
	遠藤享展	R5.7.8~9.10	56	2,824 (226)	50	R5.7.8~9.10	56	3,017 (429)	54	
	木の匠たち	R5.9.23~12.10	59	2,976 (220)	50	R5.9.23~12.10	59	4,417 (100)	75	
	北海道美術の1980年代	R6.1.18~3.17	52	2,623 (160)	50	R6.1.18~3.17	52	1,359 (70)	26	
	常設展計	—	229	11,550 (1,360)	50	—	229	16,459 (1,319)	72	
特別展	館単独主催展	—	—	—	—	—	—	—	—	
	こころ・おどる・ものがたり	R5.7.8~9.10	56	5,544 (715)	99	R5.7.8~9.10	56	3,985 (230)	71	
	蔵出し！木彫の味わい	R6.1.6~3.17	60	3,000 (555)	50	R6.1.6~3.17	60	1,884 (139)	31	
	実行委員会展	—	—	—	—	—	—	—	—	
	魅惑の西洋近代絵画	R5.4.15~6.25	62	16,120 (1,822)	260	R5.4.15~6.25	62	14,326 (554)	231	
竹久夢二展	R5.9.23~11.19	51	13,770 (1,212)	270	R5.9.23~11.19	51	9,757 (177)	191		
貸館展	—	—	—	—	—	—	—	—		
	創立60周年記念書創展	R5.12.2~12.10	8	240 (20)	30	R5.12.2~12.10	8	932 (0)	117	
	特別展計	—	237	38,674 (4,324)	163	—	237	30,884 (1,100)	130	
	合 計	—	466	50,224 (5,684)	108	—	466	47,343 (2,419)	102	

R5年度 美術館評価調書

C 学習の場と情報提供の充実

旭川 美術館

【基本的運営方針】

講演会、講座、解説、教員のための鑑賞研修、子ども向け事業等の教育普及活動及び美術に関する情報提供等の事業を推進し、地域の美術文化の振興に取り組む。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
教育普及活動の充実	<p>○展覧会の内容に関連して、剣淵町絵本の館や旭川市中央図書館などの教育機関や博物館等と連携し、各種教育普及活動の実施に積極的に取り組む。</p> <p>○旭川地域連携アートプロジェクトの活動の中で、北海道教育大学旭川校造形教育研究室、旭川市教育研究会図工・美術部会、上川旭川美術部連携協議会、旭川市彫刻美術館と連携し、管内の美術部員を対象とした鑑賞会を実施する。</p>	<p>○剣ぶち町絵本の館との連携企画や旭川市中央図書館とのコラボレーション事業など、他機関と連携して地域の教育普及の取り組んだ。</p> <p>○旭川地域連携アートプロジェクトの活動を継続的に実施した。</p> <p>○展覧会と連動した講演会やデモンストレーションなど精力的に教育普及プログラムを実施した。</p>
情報提供の充実	<p>○ホームページのアクセス数の増やSNSの発信回数の増に取り組むとともに、新聞、地元の広報誌やケーブルテレビ、FMラジオなど、様々な広報手段を用いて情報提供の拡充を行う。</p> <p>○SNSを用いた情報提供の拡充のため、ツイッターに加えて新規にインスタグラムのアカウントを開設する。</p>	<p>○新聞、地元誌、テレビ、ラジオ等、様々な媒体を活用し広告活動を展開した。</p> <p>○若年層の来館者が少ない当館において、あらゆる年齢層に情報が届くよう新たに10代、20代がメインユーザーであるインスタグラムを開設した。</p>

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価 成果・課題		総合評価
			設定の考え方							
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	72	70	過去5年間の平均値	77	110.0%	①	c ・朗読会やロビーコンサートなど美術に興味関心を持ってもらえるよう展覧会ごとに関連事業を実施するなど、目標値を概ね達成した。 ・旭川地域連携アートプロジェクトの活動を継続的に実施することで、管内の中学校美術部員への鑑賞機会の拡大に寄与している。 ・利用割合の大きい高齢者向けのプログラムが少ないことから、実施に向けて検討が必要。	C ○教育効果を高めるため、展覧会と関連したプログラムを実施する。 ○幅広い世代への普及に取り組む、特に高齢者向け教育普及プログラムを研究・企画する。	
	教育普及プログラムの参加者数	1,771	2,200	過去5年間の平均値	2,124	96.5%	②			
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	②			
情報提供の充実	ARS、図書コーナーの利用件数	6,244	2,700	過去5年間の平均値	7,054	261.3%	①	c ・図書コーナーは、一部の展覧会で内容を関連付けた図書の特集して配架する工夫を行い、目標値を大きく上回る利用をいただいたが、より美術に興味を持てただけのようさらなる配架方法の工夫が必要。 ・様々な媒体を活用した広報活動により、展覧会を広く周知することができた。 ・多くの道民に注目されるHPやSNSの掲載方法を検討することが必要	C ○展覧会と関連した書籍の配架方法を工夫するなど図書コーナーの充実を図る。 ○様々な広報媒体を活用し、情報発信に努める。 ○投稿回数を増やすなど、SNSを積極的に活用する。	
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	—	—	—	—	—	②			
	HPアクセス件数	276,085	276,000	過去5年間の最高値	237,439	86.0%	③			
	SNSの投稿数	120	120	過去5年間の最高値	111	92.5%	②			
	リモートミュージアムの公開件数	1	1	年間計画による	1	100.0%	①			
情報発信の工夫改善 [定性]	—	—	—	—	—	②				

R5年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

旭川 美術館

【基本的運営方針】

地域の他の美術館、博物館等との連携を図り、地域文化の活性化に取り組む。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画 [PLAN]	事業実施状況 [DO]
多様な機関との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ○市民実行委員会やマスコミ等との展覧会や関連事業の開催について、内容及び広報の充実に取り組む。 ○来館者サービスをより一層向上させるため、美術館ボランティアとの連携をさらに深める。 ○旭川リンク・リンク・ミュージアムなど、地域の美術館や博物館などを結ぶ連携制度等を引き続き効率的に運営する。 ○新たな取り組みとして「旭川市中央図書館・北海道立旭川美術館コラボレーション2023」と題し、年間を通じた連携活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民実行委員会及び道新との実行委員会として、それぞれ「竹久夢二展」と「魅惑の西洋近代絵画」展を開催し、講演会などの普及事業を実施するとともに、道新等のマスコミと協力し広報活動の充実に努めた。 ○ボランティアが運営する喫茶の環境整備をしたり、普段から積極的に声をかけをし情報共有を図るなど、ボランティア団体との連携を深めた。 ○旭川リンク・リンク・ミュージアムやリピーター割引などの割引制度を継続的に運営するとともに、HP掲載や受付での普及活動など、多くの来館者に活用してもらえるよう努めた。 ○新規事業「旭川市中央図書館・北海道立旭川美術館コラボレーション2023」と題して、年間を通じ各種事業を展開した。
学校等の教育機関との連携・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学校等の教育機関との連携・支援事業を継続するとともに、更なる効率的な運営を検討する。 ○オンラインアート教室の実施について、昨年度の実績を生かし、より一層内容の充実を図る。 ○展覧会毎に教員を対象とした指導者研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○旭川地域連携アートプロジェクトについて、昨年度よりも参加生徒数や実施日数を拡大し実施することが出来た。 ○オンラインアート教室については2校の実施となったが、昨年度よりも機材の使用の仕方を工夫したり、授業内容の充実を図った。 ○本庁事業である長期休業期間中の指導者研修のほかに、開催中の展覧会に関連して当館独自に指導者研修を実施した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]				今後の対応方向 [ACTION]	
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価
			設定の考え方							
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①	・市民実行委員会やマスコミ等との共催によって、より魅力的な展覧会を開催するとともに、広範なPR活動を行うことができた。 ・美術館ボランティアとの連携により、喫茶やショップのスムーズな運営につながった。 ・旭川市図書館との連携により、図書館利用者に当館のPRでき、利用者拡大につながった。地域における文化活動の強化のため、図書館との連携強化によるR5新規事業の拡充が必要。	C	
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	-	-	-	-	-	②			
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	①			
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	-	-	-	-	-	②			
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	-	-	-	-	-	②	・学校教育との連携した取組が不十分であり、地域における文化活動の振興のためにも学校での美術活動の支援など連携が必要。 ・オンラインアート教室への参加は2校のみであったことから、希望校、参加校数増に向けた取組が必要。 ・キャンパスパートナーは、1校がメンバー校となっていた。しかしながら制度を活用した学生は1名のみであり、制度の目的を達成できている状況とはいえない。 ・特別展ごとに教員向けの鑑賞研修を実施し、好評を得た。	C	
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	3	2年間計画による	2	100.0%	①				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	1	過去5年間の平均値	1	100.0%	①				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	-	-	-	-	-	①			

